

| 平成 27 年度第 3 回 横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会会議録 | |
|---------------------------------------|--|
| 日時 | 平成 27 年 11 月 19 日（木）午後 2 時から午後 4 時まで |
| 開催場所 | 中央図書館 5 階 第一会議室 |
| 出席者 | 延命委員長、荻原委員、藤崎委員、前田委員、渡辺委員 |
| 欠席者 | なし |
| 開催形態 | 公開（傍聴者 4 人） |
| 議題 | 1 平成 26 年度山内図書館指定管理業務の評価について 2 平成 22 年度から平成 26 年度までの 5 年間の振り返りについて |
| 議事 | <p>1 平成 26 年度山内図書館指定管理業務の評価について （事務局）平成 26 年度評価シートについて説明。 （A 委員）1～7 までの大項目の評価を確定し、最後に総合評価を確定する。</p> <p><u>大項目 1 図書館運営に関する全般的な事項</u> （B 委員）企画事業を数多く実施しているので、新聞社など報道機関への情報提供など、広報をより積極的に行ってほしい。 （C 委員）各項目とも水準レベルか水準を上回る達成状況であるので、A 評価と考える。 （A 委員）平成 26 年度の評価は A とする。</p> <p><u>大項目 2 基幹的なサービス</u> （D 委員）個人貸出冊数や団体貸出冊数は前年度とほとんど同じ推移であり、指定管理者制度導入前と比較してもそれほど増加していない。 （E 委員）基幹的なサービスは図書館にとって一番重要な項目と考える。より充実させてほしいという期待をこめて、B 評価と考える。 （A 委員）大項目 2 の評価は B とする。</p> <p><u>大項目 3 充実・推進を図るサービス</u> （C 委員）レファレンスについては受付件数が微減となっており、努力の余地があると考えられる。 （B 委員）商用データベースの利用状況にばらつきがある。より活用されるラインナップをそろえてサービスにつなげてほしい。また、利用者フォーラムの中で「非来館者への PR の必要性」について意見があがっている。非来館者への PR は広報・PR にも関連するが、実績数値やヒアリングからは積極的な取り組みが見られなかったため、より一層の取り組みを求めたい。 （D 委員）学校連携事業については事業開始後から件数が増加しており、それが児童の新規登録者数の増加につながっていると考えられる。他の図書館より事業実施件数が多い点も評価できる。 （A 委員）A マイナスか B プラスかというところだが、レファレンスについて指摘があったので、B 評価とする。</p> <p><u>大項目 4 民間ノウハウを活かした新たな取組</u> （E 委員）有料宅配の利用実績が減少している。利用頻度の高い利用者が来館利用に切り替わったということだが、公的なサービスとしては個人の利用が実績に大きく影響するという点について、見直しが必要と考える。 （B 委員）有料宅配に対する事業者としての目標設定や事業の全体的な重要度、今後</p> |

の考え方がヒアリング等からは把握できなかった。

（C委員）非来館型のサービスとして図書取次サービスとあわせた事業の見直しをされることが望ましい。有料の宅配サービスを利用する利用者側の意識をきちんと把握されるとな面白い。

（B委員）新たな提案としてビブリオバトルを開催され、平成 26 年度の新しい取り組みとして評価できる。しかし、民間ノウハウの活用については、今後も新しい取り組みとして、次々と新たな展開が求められる。ビブリオバトルにとどまらない、また別の新しい取り組みに期待したい。

（D委員）他の公立図書館に波及するレベルの取り組みがあればA評価だが、そこまで至っていないと考える。

（A委員）評価はBとする。

大項目 5 利用者満足度

（D委員）利用者満足度は例年高い満足度を得ており、評価できる。今後は、非来館者、来館頻度の低い人の意見もしっかりと受け止めてほしい。

（A委員）大項目 5 の評価はAとする。

大項目 6 施設の維持管理

（B委員）施設設備が良好に維持管理され、緊急時の対応状況についても、危機管理体制がきちんと確立されており、評価できる。A評価として依存はない。

（A委員）施設の維持管理については、A評価とする。

大項目 7 収支状況

（D委員）収支状況は計画通りであり、おおむね適正である。

（A委員）平成 26 年度評価はA評価とする。

総合評価

（E委員）平成 26 年度は横浜市民の読書活動の推進強化に期待した年度だったが、期待を上回る展開が見られなかったため、B評価と考える。

（D委委員）基幹的なサービスや充実推進をはかるサービスがB評価であるため、Aには至らないと思う。

（B委員）総合評価はBと考えるが、指定管理者制度導入初期と比べ、A B C 評価からは読み取れない部分の成果が確実に表れていると判断する。次期の5年間に向けて事業者として様々な機会を活用し、より魅力的な図書館運営に努めてほしい。

（A委員）総じて昨年度より評価の高い運営をされているが、総合評価としてはB評価とする。

2 平成 22 年度から平成 26 年度までの5年間の振り返りについて

（D委員）山内図書館は何かできることはないかと常に目を配り、新しい事業実施につなげるなど、自主企画事業や学校連携事業を他の市立図書館より数多く実施している。こうした取り組みの結果、他の市立図書館の入館者数が減少傾向にある中、山内図書館の入館者数が微増している点を評価したい。

（C委員）山内図書館は市立図書館 18 館うちの1館としての運営をしながら、地域に根差した図書館を目指し、指定管理ならではの機動性によって運営されている。地域との様々な連携をつくり、着実な成果を挙げてきたと言える。

| | |
|-------------|---|
| | <p>（E 委員）山内図書館は、青葉区の利用者の意識の高さなど、住民の特性を把握しながらよい運営をしている。指定管理者制度導入初期と比べると館内の雰囲気は明るくなり、職員のサービスも確実に向上していると感じている。今後ますますの向上を目指して頑張ってもらいたい。</p> <p>（B 委員）他の図書館とは違う民間という立場で運営しているということを、もっと自覚的に、積極的に捉えて活動を展開してみてもどうか。民間事業者として公立図書館を運営するというバランスが難しい状況にあると思うが、何のために指定管理者制度を導入しているかという根底に立ち返り、民間事業者としてどうするかを積極的に考え、館内でも色々と議論されることを期待する。</p> <p>（A 委員）これまでの図書館は本の貸出や本を中心とした生活を組み立てていくことの一助であったと思うが、今、ニーズが多様化している中で、いかにニーズに応えていくかという点が求められている。山内図書館は青葉区の住民ニーズを把握し、そのニーズに応えられていると感じる。これまで総合評価はずっと「B」評価であったが、平成 26 年度は「A」評価に近い「B」評価である。今後は、それを「A」評価にかえる、インパクトのある運営を期待したい。</p> |
| 資料・ 特記事項 | <p>1 資料</p> <p>（1）平成 27 年第 2 回横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会会議録（案）</p> <p>（2）平成 26 年度評価シート（横浜市山内図書館）</p> <p>（3）平成 22 年度から平成 26 年度 振り返り資料</p> <p>2 特記事項</p> <p>（1）平成 27 年第 2 回会議の議事録は承認</p> |